

# 市民派「緑の党」発足

## 「原発全廃」で国政目指す

「原発の即時全廃」を掲げる日本版「緑の党」が28日、東京都内で設立総会を開き、結党した。環境や参加民主主義を旗印に欧州などで躍進する緑の党とも連携。全国に広がる脱原発を求める声を背景に、次の衆院選比例区に候補者を擁立し、国政進出を目指す。緑の党の母体になったのは、約70人の地方議員らで

つくる政治団体「みどりの未来」。28日、みどりの未来を解散して党を立ち上げた。みどりの未来から引き継いだ会員数は約1千人。党の正式名称は会員の投票で「緑の党 Greens Japan」に決めた。共同代表に就任した須黒奈緒・東京都杉並区議(33)は総会後の記者会見で「衆院選への挑戦を検討してい

る。脱原発の受け皿になるよう広い枠組みで挑戦したい」と表明した。脱原発の市民団体の協力を得て、衆院選の東京比例ブロックで候補者擁立を目指す。来年夏の参院選でも10人を擁立する方針だ。原発の即時全廃や脱経済成長、公正な税負担による社会保障の充実などを掲げ、人類学者の中沢新一氏が

らが2月につくった政治運動体「グリーンアクティブ」とも協力関係を結ぶ。緑の党が国政進出を目指す背景には、脱原発運動の盛り上がりがある。今年5月、原発の是非を問う住民投票の実現を求める市民グループが東京都に提出した署名は約32万人分。都議会では反対多数で否決したが、関心の高さが表れた。欧州などで躍進する緑の党とも連携する方針だ。90カ国の緑の党で作る国際組織「グローバル・グリーンズ」に加盟。日本の緑の党は東京電力福島第一原発の事故を経て結成されただけに、各国の緑の党関係者の

注目度は高い。この日の総会に招かれたドイツ緑の党のベアベル・ヘーン会派副代表は「ドイツでは約30年前、硬直した社会を市民の側から変えた」という気持ちで緑の党が始まった。日本でも変革を求める動きは高まっている」と指摘した。オーストラリア緑の党のスコット・ラドラム上院議員は「原発を止めることが大きな課題だ。日本で緑の党が力強いものになれば、全世界にも大きな影響があると信じている」と期待を込めた。須黒氏は「いままですべて政治に関心が無かった人たちとも、脱原発の一点でつなが

りたい」という。党分裂で混乱する民主党の閣僚経験者は「民主党からこぼれていく議員がいるのうわさがある」と、緑の党の動向に警戒感を示す。

広井良典・千葉大教授(公共政策)は「日本で環境やエコロジーの理念を掲げるグループが、『政党』という形で結集するのは初めて。現代社会を根本から問い直す政策を訴える政党が出てきた意義は大きい。一時的な運動で終わらず、中長期的に定着できる形を作れるかどうかが重要だ」と指摘した。(園田耕司)



日本版「緑の党」とは

須黒奈緒 杉並区議

緑の党

加盟

協力関係

グローバル・グリーンズ

グリーンアクティブ

「ドイツ緑の党」など90カ国の「緑の党」でつくる国際組織

「脱原発」などを掲げた「緑」の政治運動体。人類学者の中沢新一氏らが結成



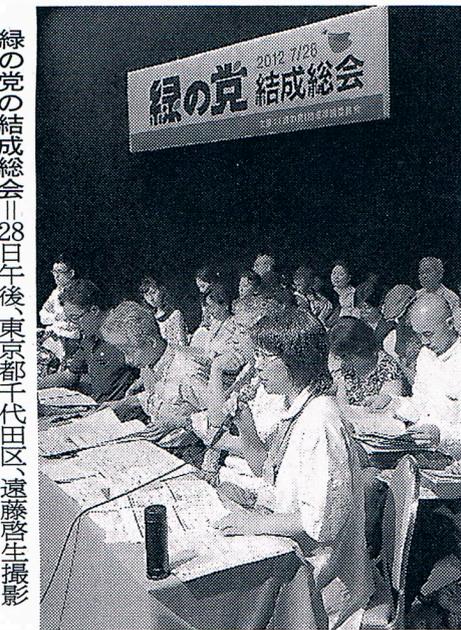
ドイツ緑の党ベアベル・ヘーン会派副代表



中沢新一氏

### ■「緑の党」の主張

- ・ただちに脱原発達成、持続可能なエネルギー社会へ
- ・経済成長神話から卒業。地産地消を促進し、循環型経済へ
- ・公正な税と社会保険料の負担で生存権を保障
- ・基本的人権を保障し、差別と人権侵害を許さない
- ・参加民主主義。お任せ民主主義からの脱却



緑の党の結成総会―28日午後東京都千代田区、遠藤啓生撮影